

平成 22 年度第 5 回 IODP 部会執行部会議事録(案)

日時:2010 年 12 月 2 日(木)14:00~18:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者:

執行部:山崎俊嗣(産業技術総合研究所)、安間 了(筑波大学)、池原 実(高知大学)、
坂本竜彦(海洋研究開発機構)、高澤栄一(新潟大学)、林 広樹(島根大学)、
平野直人(東北大学)、松本 剛(琉球大学)、森田澄人(産業技術総合研究所)、
山本啓之(海洋研究開発機構)

オブザーバー:

文部科学省海洋地球課:酒井佑介
事務局:菊田宏之、梅津慶太(CDEX)

欠席者:芦 寿一郎(東京大学)、沖野郷子(東京大学)、末次大輔(海洋研究開発機構)、
山本正伸(北海道大学)

議事次第(案)

1. プログラムリニューアルについて[山崎部会長]
 - ・新 SAS Terms of Reference 資料 1
 - ・J-DESC 専門部会改組..... 資料 2
2. IODP 掘削航海関連[事務局]
 - ・乗船研究者応募状況..... 資料 3
3. 地球掘削科学推進委員会報告/IODP 国内支援
 - ・IODP 乗船後研究支援(今年度および来年度以降)[事務局]..... 資料 4
 - ・IODP 掘削提案フィジビリティ研究(旧 IODP プロポーザル作成支援)[山本委員] 資料 5-1, 5-2
4. J-DESC 活動
 - ・J-DESC 法人化について[山崎部会長]..... 資料 6
 - ・資源人材育成の提案(陸上部会より)[山崎部会長] 資料 7
 - ・J-DESC レクチャー&サイエンススクール[事務局、坂本委員]
 - ・コアスクール基礎コース・同位体コース計画[池原委員] 資料 8-1, 8-2
5. その他
 - ・次回開催日

配布資料

- | | | | |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------|
| 資料 1 | 新 SAS Term of Reference (PGB, PEP, SIPCom, EPSP, SCP, TP) | 資料 4 | 今年度乗船後研究支援について(案) |
| 資料 2 | 専門部会会則
1. 掘削航海専門部会
2. 掘削研究専門部会
3. 事前調査検討専門部会
4. 環境保護安全専門部会
5. 科学計測専門部会
6. 技術開発推進専門部会 | 資料 5-1 | IODP 掘削提案フィジビリティ研究の募集について |
| 資料 3 | 乗船者応募状況 | 資料 5-2 | プロポーザル作成支援体制への提言(案) |
| | | 資料 6 | 学会の法人化について |
| | | 資料 7 | 資源人材育成研究会(仮称)設立への呼びかけについて(たたき台) |
| | | 資料 8-1 | コア解析基礎コース開催概要 |
| | | 資料 8-2 | コア同位体解析コース開催概要 |

議事録(案)

1. プログラムリニューアルについて[山崎部会長]

・新 SAS Terms of Reference.....資料 1

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・PEP 議長は日米のローテーションにはこだわらない。
- ・議決権の保有については日米で 2/3 以上を有することについて主張している。
- ・サービスパネルについてもメンバーシップが 2/3 以上を有することが必要かどうか検討する必要がある。

合意事項(101202-01): サービスパネルのメンバーシップについて、主導国から原則としては 2/3 のメンバーを出すことが ToR に書いてあるべき。しかしながら、日本ではどうしてもカバーできない分野の専門家を他のメンバー国から出してもらうことはやむを得ない。

・J-DESC 専門部会改組.....資料 2

森田委員より、技術開発推進専門部会の有志での打ち合わせ(技術開発系国内部会ありかた TF)に関する報告がなされた。打ち合わせでの要点は以下の通り。

- ・1)「ちきゅう」に関する技術開発チェックシステム、2)新しい技術開発の提案を聞く窓口の機能、3)産業界との連携が必要であろう。
- ・1)「ちきゅう」の技術開発については、CDEX が実施しており、外部から立ち入る余地はない。
- ・2)CDEX が実施される Exp.に対応した技術開発を行ってれば、新しい技術開発について外部から提案する必要はない。
- ・3)産業界との連携については特に詳細な議論はなかった。
- ・これまで技術開発推進専門部会として活動してきた内容をまとめたい。そのための WS を来年度に開催したい。会員提案型活動経費に応募を検討する。

合意項目(101202-02): 掘削研究専門部会、掘削航海専門部会、環境保護安全専門部会、事前調査検討専門部会についてはプロポーザルや航海および新 SAS に対応し存続させる。

合意項目(101202-03): EDP が次期体制でなくなった後でも、技術開発等に関して議論を継続的に把握し、即座に対応できる機能を残しておく必要がある。現時点では、科学計測専門部会と技術開発推進専門部会を合わせた専門部会を設置するのがよいと考える。

2. IODP 掘削航海関連[事務局]

・乗船研究者応募状況.....資料 3

事務局より資料 3 に基づき標記の件について報告がなされた。

- ・Exp. 337 の募集を締め切った。最終的な応募者は 13 名。現在掘削航海専門部会にて評価中。
- ・Exp. 338 は〆切が 12/31 で、現在の応募者 1 名。
- ・Exp. 339 は〆切が 1/3 で、現在の応募者 0 名。
- ・Exp. 335 と 336 の追加募集については USIO からの依頼待ちの状況。

3. 地球掘削科学推進委員会報告/IODP 国内支援

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・小川委員会が先日開催された。主な議題は乗船後研究費とプロポーザル作成支援。

・IODP 乗船後研究支援(今年度および来年度以降)[事務局] 資料 4

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・来年度から実施する予定の乗船後研究支援は、研究航海単位で研究代表者の所属機関と JAMSTEC との委託研究契約として実施する。
- ・代表者以外の乗船者への再委託を認める。
- ・委託額は最長 3 事業年度で 400 万円程度を上限とする。これは、それぞれの研究者へのばらまきではなく、(一人 50 万円の均等配分というよりは、)チームとして有効に使ってもらうことが望ましい。
- ・今年度の支援に関しては、アフタークルーズワーク制度を利用して実施する。
- ・コミュニティへの周知は制度化のめどがついた段階で説明会を開催する予定(年度内)。

・IODP 掘削提案フィジビリティ研究(旧 IODP プロポーザル作成支援)[山本委員] 資料 5-1, 5-2

山崎部会長より背景の説明がなされた。

- ・AESTO から実施されていた IODP 掘削プロポーザル作成支援を CDEX が IODP 掘削提案フィジビリティ研究として実施することとなった。
- ・これまで支援を受けたプロポーザルについて今年度掘削研究専門部会によってレビューが行われ、小川委員会に報告された。

事務局より、資料 5-1 に基づき、IODP 掘削提案フィジビリティ研究の募集について説明がなされた。

- ・AESTO が実施していた IODP 掘削プロポーザル作成支援と制度上ほとんど変わらない。
- ・小川委員会の助言のもと、JAMSTEC が相手先を決定し、実施する。
- ・12 月 1 日から募集を開始している(12 月 28 日まで)。
- ・4 月までに契約などの手続きを行い、4 月以降に研究費を使えるようなスケジュールを組んでいる。

山本委員よりプロポーザル作成支援レビューについて資料 5-2 に基づき、説明がなされた。

- ・SAS ではサイエンスだけではない部分でも評価され、その部分が他のプロポーザルとの差につながる。
- ・経済的支援のほかに、良いプロポーザルを書くための方法をプロポーネントに伝える仕組み・体制が必要。
- ・特に、新しいプロポーザル評価のシステムでは、評価は Pre と Full の段階でそれぞれ 1 回になるため、完成度が高いプロポーザルでなければ掘削に結びつかないだろう。

4. J-DESC 活動

・J-DESC 法人化について[山崎部会長] 資料 6

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・芦委員に WG のまとめ役をお願いした。
- ・12/6 に第 1 回 WG 会議が開催される予定。
- ・WG から両執行部会に答申を出し、年度内に法人化の是非を決定し、総会で審議というスケジュール。

・資源人材育成の提案(陸上部会より)[山崎部会長] 資料 7

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・資源人材育成研究会の立ち上げを J-DESC を通じて行いたい旨の連絡が陸上掘削部会よりあった。

合意・実行項目 (101202-04) :陸上掘削部会から提案されている資源人材育成研究会(仮称)設立への呼び掛けについて、趣旨に賛同し、可能な支援を行う旨を浦辺氏に回答する(実行者:山崎部会長)。

・J-DESC レクチャー&サイエンススクール[事務局、坂本委員]

坂本委員より標記の件について説明がなされた。

- ・これまで実施してきたコアスクールとは異なり、掘削プロポーザルに結びつくサイエンス面をブラッシュアップするスクールを想定している(コンポジションセミナー)。
- ・執行部と会員機関の共同企画とし、現地実施組織(会員機関)は公募制によって決定する。
- ・テーマを絞ったり広範囲をカバーしたり、プロポーザルを書く若手研究者もしくは学生を対象とするなど、フレキシブルに実施できる制度にしたい。

合意項目 (101202-05) :坂本氏提案の実施要領を完成させ、それをもとに J-DESC サイエンススクールを来年夏ごろに実施する予定で企画を進める。

実行項目 (101202-06) :レクチャーについては、SAS 委員や乗船経験者にも講師登録してもらうように連絡する。また、J-DESC 会員機関担当者に講師派遣制度について知らせる(実行者:事務局・各執行部委員)。

・コアスクール基礎コース・同位体コース計画[池原委員].....資料 8-1, 8-2

池原委員より標記の件について説明がなされた。

- ・今年度は、3月10日～13日に基礎コース、14日～16日に同位体コースを実施予定。

合意項目 (101202-07) :基礎コースと同位体コースの実施概要を承認する。

事務局よりロギング基礎コースについて説明がなされた。

- ・今年度のロギング基礎コースは2月18日～20日に東大大気海洋研究所(柏)で開催したいとの連絡があった。
- ・近いうちに企画書が送られてくるため、メールにて承認を求めることになる。
- ・アドバンストコースの話があったが、今年も基礎コースを実施する。

5. その他

事務局より、2013年以降の国際深海掘削計画に関する検討について説明がなされた。

- ・JAMSTEC 内に立ち上げた深海掘削研究プロジェクトチームとは別に、外部有識者から構成される深海掘削検討会(仮名)を立ち上げ、文科省の海洋開発分科会への報告書を作成することを考えている。
- ・このプロセスの一つとして、深海掘削科学コミュニティーを中心としたワークショップ(またはシンポジウム)を3月末に開催する。

合意項目 (101202-08) :3月下旬に実施する予定のワークショップ(またはシンポジウム)を JAMSTEC と協力して開催する。

松本委員より、アウトリーチ活動に関する提案書(株式会社リバネス)の紹介があった。

- リバネスは主に中高生・教員を対象にアウトリーチ活動に関する事業(出版、講演会など)を行っている。
- リバネスから J-DESC に対して掘削科学のアウトリーチプランの提案があった。
- J-DESC のアウトリーチとして検討するのも一つの方法。ただしそれなりの金額がかかる。

• 次回開催日

山崎部会長が Exp. 330 から帰った後に開催。2 月 3 月で 1 回ずつ。メールにて調整を行う。